

国語科学習指導案

授業の視点

「助言の手引き123!」や「補助輪☆SEVEN」を使い助言をし合うことは、根拠を明確にし相手にわかりやすい鑑賞文にするために効果的であったか。

1 単元名 根拠を明確にして魅力を伝えよう（教材名「鑑賞文を書く」）

2 単元の目標

- ・芸術作品を鑑賞し、その魅力が伝わるように、根拠を明確にして鑑賞文を書くことができる。
- ・書いた鑑賞文を互いに読み合い、作品の捉え方や表現のしかたについて考えを深める。

3 単元の評価規準

- 【知識・技能】 ・心情を表す語句の量を増やし、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使うことを通して、語感を磨こうとしている。
- 【思考・判断・表現】 ・「書くこと」において、根拠を明確にしながらか自分の考えが伝わる文章になるように工夫している。
- 【主体的に学習に取り組む態度】 ・積極的に明確な根拠を考え、学習の見通しをもって鑑賞文を書こうとしている。

4 指導計画（全5時間計画）

過程	時間	目標・めあて	学習活動	評価(方法・観点)
つかむ	1	◎学習の見通しをもち、根拠を明確にして鑑賞文を書くことに興味をもつことができる。 学習全体の見通しを持ち、鑑賞文に書きたい作品を選ぼう。	○「感じたことを整理する」を使い、鑑賞の観点を確認する。 ○好きな作品を選び、作品の魅力をひと言で書く。	【主体的に学習に取り組む態度】 ・学習の見通しを持つことができる。 ・芸術作品の鑑賞文を書くことへの関心が高まっている。 (発言、WS振り返り)
単元の課題：先輩にわかりやすく魅力が伝わる鑑賞文を書こう。				
追究する	1	◎鑑賞の観点について理解し、作品の魅力について事実と理由付けを考えることができる。 作品の魅力を伝えるミニ鑑賞文を書こう。	○作品の魅力を語る観点についてグループで魅力を出し合う。 ○分担を決め、ミニ鑑賞文を書くためのメモを作り、下書きをする。	【知識・技能】 ・根拠を「事実」と「理由付け」に分けて書くことができる。 (発言、WSへの記入や振り返り)
	1	◎読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見だし、文章を練り上げることができる。 助言をいかして、わかりやすいミニ鑑賞文を書こう。	○書いた鑑賞文を読み合い、根拠としての「事実」と「理由付け」の述べ方について助言し合い、推敲する。 ○友達からの助言を踏まえ、ミニ鑑賞文を完成させる。	【思考・判断・表現】 ・相手の意図を意識した助言をしている。(発言) ・助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見だし、推敲している。(WSへの記入や振り返り)
	1	◎作品の捉え方や表現の仕方について考えを深め、書き手の工夫点について考えることができる。 発表会をして、先輩が納得できる鑑賞文になったか検討しよう。	○発表会の練習をする。 ○発表会をして、書き手の工夫点について考え、作品の魅力が伝わったか確認する。	【思考・判断・表現】 ・作品の捉え方や表現の仕方について考えを深めている。 (発言、WSへの記入や振り返り)
まとめる	1	◎根拠を明確にして四百字程度で鑑賞文を書くことができる。 四百字程度でわかりやすく魅力が伝わる鑑賞文を書こう。	○発表会でもらったコメントを生かして掲示用に四百字程度で鑑賞文を仕上げる。	【知識・技能】 ・心情を表す語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して文章の中で使うことを通して、語感を磨こうとしている。 (WSへの記入や振り返り)

5 本時の学習 (本時 3 / 5)

(1)ねらい 前時に書いた鑑賞文の下書きをグループで読み合い、「事実」と「理由付け」の観点を中心に助言し合うことを通して、よりよい鑑賞文に仕上げることができるようにする。

(2)準備

- ・ワークシート
- ・「助言の手引き 1 2 3 !」「補助輪☆SEVEN」
- ・付箋紙 (黄色・ピンク)
- ・拡大した絵画
- ・ポイントカード (鑑賞の観点、本時の推敲のポイント)

(3)展開

	学習活動 (生徒の意識)	教師の支援及び留意点(◎支援、☆留意点)	評価項目
つかむ	<p>1 本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞文をもっとよくしたいな。 ・たくさん助言してもらいたいな。 	<p>☆単元のゴール「美術室の廊下に掲示し、先輩に読んでもらうための鑑賞文を書く」ことを確認する。</p>	
	<p>〈めあて〉助言を生かして、わかりやすいミニ鑑賞文を書こう</p>		
追究する	<p>2 グループで下書きを読み合い、推敲のための助言をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかりやすく伝わる文にするにはどうしたらいいのかな。 ・助言をもらうとよくなったな。 ・相手が先輩だから、丁寧な文にしたほうがいいんだ。 ・〇〇なことを伝えたいけど、ヒントがもらえなぞ。 ・〇〇さんは……の表現の仕方がうまいな。まねしてみよう。 ・もっと的確な表現はないかな。 	<p>◎「助言の手引き 1 2 3 !」を使い、文章を練り上げるために、先輩の立場から助言を行うようにさせる。</p> <p>◎助言は改善点だけでなく、よい点も伝えさせる。特に、うまい表現は、なぜうまく表現できているか根拠や理由も添えて伝えさせる。</p> <p>☆「理由付け」の助言はピンクの付箋に、「事実」やその他の助言は黄色の付箋に、分けて書かせる。</p> <p>☆助言に迷ったら、書き手がどんな思いがあるのかを質問するようにさせる。</p> <p>☆根拠となる「事実」と「理由付け」が明確かどうかを推敲の観点として重要視させる。</p>	<p>【思考・判断・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相手の意図を意識した助言をしている。(発言) ・助言を踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見だし、推敲している。(WSへの記入や振り返り)
	<p>3 助言を受けて、文章を練り直し、ミニ鑑賞文を完成させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・よし、よく書けそうだな。 ・先輩にわかってもらえそうだな。 ・よい鑑賞文になりそうだな。 	<p>◎友達からもらった付箋をもとに、自分の文章を練り上げるさせる。</p> <p>☆書き終わった生徒には、完成した鑑賞文と下書きを比べ、推敲することでよりよい文章になっていることに気付かせる。</p>	
まとめる	<p>4 本時を振り返る。</p>	<p>◎本時に新しく気付いたことやわかったことを振り返らせる。</p>	
	<p>〈振り返り〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・根拠となる「事実」と「理由付け」を明確にすると、相手が納得するよい鑑賞文になるのだとわかった。 ・助言し合って推敲することで、よりよい文章になるんだな。 		

助言の手引き1・2・3!



《助言する側は…》

1、根拠に基づいた助言をする。

- ◎「…だから、こうするといいよ。」
- ◎「…のためには、こうする方がいいかも。」
- NG「何となくこうするといいよ。」
と感覚で助言する。

2、相手の意図を汲んで助言する。

- ◎相手がどうしてほしいのか理解して、
「…したいのだったら、こうするといいよ。」
- ◎「どうしたいの？」と聞いてから助言する。
- NG 一方的に自分の考えを押しつける。

3、助言内容をうまく伝える。

- ◎相手にわかりやすい言葉で伝える。
- NG 誤解を招くあいまいな助言をする。
- NG あれこれ並べ上げて、相手を困惑させてしまう。

補助輪☆SEVEN 《書くこと》

	① 誤字脱字はないですか？
表現	① 相手に合わせた言葉遣いになっていますか？
	② 長すぎる文や意味のわからない文はないですか？
	③ もっとわかりやすい言葉はないですか？
	④ 的確な具体例になっていますか？
	⑤ 書いた人の意見・考えがちゃんと入っていますか？
	⑥ しっかり根拠が入っていますか？
	⑦ 事実と意見は分かれて書かれていますか？

😊 助言し合う時には
何を助言して欲しいかを
はっきりさせてから行う。



《助言される側は…》

1、自分の意図や思いを伝える。

- ◎「こうしたいのだけど、…」
- ◎「〇〇を表現したいと思っているのだけど、…」
- NG「何でもいから直し方を教えて…」

2、何に対して助言がほしいかを伝える。

- ◎「…を伝えるのに、うまい表現はないかなあ。」
- ◎「別の的確な表現はないかなあ。」

3、助言してもらったら、何らかの反応をする。

- ◎「なるほど、早速使ってみるよ。」
- ◎「そうか、そうとも考えられるけど、自分の意図したことは少し違うかなあ。」
- NG 何でも受け入れてしまう。(自分の意図が変わってしまう可能性がある)